

令和4年9月吉日

県立加古川南高等学校「創立記念日」に寄せて

県立加古川南高等学校

校長 前田達也

生徒の皆さん、10月1日は本校の創立記念日です。今年度は創立40年目を迎え、周年行事を展開しています。温故知新で開校記念誌を紐解くと、

～第1回入学式式辞 田村善太初代校長～

諸君らにまず第一に申し述べたいことは、諸君は本校の第1回生であるということです。諸君は加古川南高等学校を創造する先達であります。新しい学校づくりに一人ひとりが参加し、立派な校風をつくっていく重大な責任があります。と同時に、それは、創造する喜びと感激につながると思うものであります。諸君の前に道はない。諸君の歩いたあとが道になるものであります。これから恐らく永遠につづくであろう、加古川南高等学校の歴史と伝統は、諸君らにとってつくられるものであります。この責任を肝に銘じ、青春をぶっつけて創造していく喜びと感激を大切にしたいのであります。

校訓の「真実（まこと）を求め、剛毅の精神を養い、知恵を磨く」の第1の、「真実を求める」で、社会の一員として、どう生きるか、一体、真実はどこにあるのかを考えてみるのが、青春の一つの証いと言えるのであります。

次に「剛毅の精神を養う」は、既設校の生徒に比べますと、より困難なことを君たちに要求することが多いと思うのであります。意図的にも君たちを逆境においてこそ、成長させる教育の場がそこにあると考えるのであります。逆境に耐え、意志をしっかりと、物事にくっしない精神こそ、私のいう剛毅であります。

三つ目の「知恵を磨く」で、単なる知識をさすのではなく、物事の理をさとり、是非善悪をわきまえることの出来る力、人格の形成と深く結びついた実践的な知識を意味するものであります。

初代校長の1期生への思いや願い、そして加古川南高校の校風づくりに大きな決意を感じます。生徒の皆さん、今一度、心静かに、本校の発展に寄与された先人へ思いを馳せ、昭和・平成・令和の年号を背に、今ここで「建学精神は校訓にあり」と原点回帰をして創立から40年の節目を大切にしていきたいと思います。

加古川南高等学校の歴史と伝統、そして校風をしっかりと引き継ぎ、その意味を心に刻み、**～チャレンジングスピリット で 自分らしさをブラッシュアップ～**していきたいと思います。

感謝の気持ちで、志をたて、新しい時代を切り拓く人間力を養い、主体的にたくましく自立すべく研鑽を積み、未来の社会の中で輝ける力を身に付けたいと思います。